

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號二第 卷六十四第

行發日一月二年三十和昭

論叢

歐米に於ける日本學研究に就いて……………經濟學博士 本庄榮治郎
 支那農業の片影……………法學博士 財部靜治
 銀行機構に於ける通貨の創作……………經濟學博士 小島昌太郎
 統計教育論……………經濟學博士 蜷川虎三

時論

昭和十三年度の増稅……………經濟學博士 沙見三郎

講演

新興化學工業……………工學博士 喜多源逸

研究

生命保險事業に於ける投資の特性……………經濟學士 西藤雅夫
 企業結合と外部節約……………經濟學士 田杉 競

說苑

一追放學者の觀たるナチスの經濟理論……………經濟學士 中川與之助
 ヴァイナ一の國際貿易論研究……………經濟學士 松井 清
 リカアドウの爲替論と購買力平價說……………經濟學士 有井 治
 リーフマンの問屋制度論……………經濟學士 堀江英一

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

(禁轉載)

經濟論叢

第四十六卷 第二號 (通卷第百七拾貳號) 昭和十三年二月發行

論叢

歐米に於ける日本學研究に就いて (上)

本庄 榮治郎

歐米人の東洋に對する關心が頗る古くより存することは今更いふ迄もない所であるが、それは地域的關係からいへば中東・近東・極東等の各方面に亙り、極東の中でも支那に對する關心もあれば日本に對する關心もあるであらうが、從來は寧ろ支那に對するものが主で、日本に對するものは之に比すれば極めて小であつたといひ得る。次に内容的關係からいへば好奇的に或る國の事柄を聞きたがり、知りたがるといふ程度から、ある特殊の品物を蒐集するとか或は又美術を好愛するとかいふ類もあれば、更に進んで或る國の文化を研究する程度にまで進んだものもあらう。日本に對しても好奇的な興味や知識欲が次第に各國人の間に進んでゐたのみならず、蒐集家も各國に之を見出すことが出来るが、最近では學問的なる日本研究の風潮が次第に進展しつゝあることを認めることが

出来る。

私は昨年四月乃至十月に於て歐米再遊の機會を得たので、各國における日本研究の狀況を多少とも見聞することが出来たのであるが、それは好奇的興味とか蒐集家とか或は博物館の蒐集品とかいふ方面ではなく、寧ろ日本の歴史や文化をその由來に遡つて深く検討し、或は躍進日本の正しき姿を理會せんがために、その政治經濟文化其他の事情を研究せんとする所謂日本學研究について、その設備現狀等を視察研究することを主としたのであつたが、旅行の期間が短かりしのみならず、恰も暑中休暇に屬せし處が多かつたので、視察の目的を十分に達し得ざりしことを深く遺憾とする次第であるが、それでも從來我國の雜誌その他に紹介されてゐた所と多少異なる所もあり、又自ら大に得る所もあつたので、以下先づそれ等の見聞の一斑を録して現狀を明かにし、然る後それに対する卑見の一端を述べて見たいと思ふ。猶ソ聯の日本研究は相當整つてゐるやうであるが、之を觀ることが出来なかつたので茲には述べない。

二

一、獨逸。歐洲に於ける日本學研究の最も進んでをり、比較的整つた設備と多くの研究者とを持つて居る處は獨逸である。特に伯林の日本學會 (Japaninstitut) は研究所として唯一のものであり、他は何れも大學其他學校の研究室に於て行はれてゐるものである。

(イ)日本學會。日本學會は一九二六年に創立され、嘗て駐日大使であつた W. SOLT 氏が會長であつたが、その後 Admiral Paul Behmcke 氏を経て昨年七月 Admiral Foerstel 氏が會長に就任された。日本側の主事 (Leiter) としては今日迄に宇野哲人・鹿子木貞信・島園順二郎・上野直昭・黒田源次・友枝高彦・孫田秀春・伊藤忠太諸氏が歴

任せられ、助手に北山淳友氏が居られる。獨逸側主事として目下 M. Ramming 博士が常務を掌理し、獨逸人助手が居る。獨逸外務省の監督に屬し資金及寄附金によつて事業を行つてゐる。藏書は約一萬二千冊に達し、叢書・辭典・單行本・雜誌に至るまで各種各方面のものが集められてゐるが、最近の新刊書は入手困難のため割合に少い。機關雜誌として Yamato を發行し(1929—1932)その後 Nippon と改題し三年を経過してをり(年四回の刊行)、種々の單行本も刊行され約二十部に達してゐる。講演會・展覽會等も行はれる。別に日獨協會があるが、之は宣傳省に屬し、寧ろ社交的團體である。

(ロ) Ausland Hochschule もと柏林大學の東洋語ゼミナルとして存在し、ビスマルクの創立したもので創立五十年に達し最も古き歴史を有してゐる。最近之を獨立せしめて Ausland Hochschule とし Technische Hochschule と同格に取扱つたのであるが、大學とは切り離された形になつてゐる。茲には Schansmidt 教授が在り、邦人教師として村田豐文氏が居られる。圖書室には多數の日本書及日本に關する歐文書を藏してゐるが、語學文學に關するものが比較的多く、政治經濟に關するものは甚だ少い。本校にて日本語を修めてゐる學生は二十數名で、その研究は語學及一般歴史の程度で、四ゼメスター即ち二學年間に日本の新聞を讀み得る程度にすることが目標であるが、そう容易には行かぬやうである。猶柏林大學では Kunimol 教授が東洋美術を講義されてゐるが、正教授としての日本學講座はない。

(ハ) ボン大學。大學構内から少し離れた別の建物に Orientalisches Seminar, Abteilung der Japanologie がある。佛敎・哲學に關する圖書を多く藏してをり、大藏經・國譯一切經・日本佛敎全書などがあるが、一般歴史・文化

史・政治經濟等に關するものが少く、辭書もよく揃つてはゐない。佛敎書がよく揃つてゐるのは前任者松本徳明氏が蒐集されたのであるといふ。講義は Kressler 講師が日本文化及日本語を教へ、日本人教師に若山淳四郎氏が在任されてゐる。聽講學生は十四五名で比較的多い方である。學期始めには四十名もあつてクレスラー氏が驚かれたといふ。昨年四月九日から十一日まで當地で日本學大會ともいふべき會合 (Orientalisches Seminar der Universität Bonn) が行はれ、講演は

F. Herrigel, Abendländische Philosophie in Japan.

O. Kressler, Der Buddhismus in Japan.

M. Kammung, Der rassenhafte Zusammensetzung des japanischen Volkes.

W. Gunderf, Nationale und internationale Religion in Japan.

O. Kimmel, Japan in Rahmen der Weltkunst

等があり各地の日本研究學者を動員してこの會合が行はれたことは注意すべきである。之には當時の武者小路大使の努力、本大學東洋研究室東洋部長 K. Kane 教授の斡旋に由る處が多いといふ。

(ニ)ライプチヒ。Leipzig 大學に屬して Japanisches Institut がある。六年前に創立されたもので、もと Lamprecht 教授の私宅なりしものを本山氏が寄附されたもので大學附近にある。藏書約二千冊、日本文化史擔當のユニバーシヤル教授は當時不在であつたが、大賀小四郎氏が講師として日本語を擔當されてゐた。四ゼメスター以上學修したものはドクトル論文を書く資格を認められてをり、聽講學生數は約十五名であつた。別の場所に日獨學生會館 (Japan Deutsch Studenten Heim) があり、交換學生その他が居住してゐた。この建物も日本側の寄附によるものであるといふ。

(ホ)ハンブル。もと Kolonial Museum であつたのを一九一八年に大學としたもので、大學としては最も新しいものである。此處にも日本學研究室がある。かの Florenz 教授が停年退職後 Gunderdt 氏が教授となつたもので、日本學の正教授を有するものは本學のみである。日本人教師には堀岡智明氏があつて日本語を擔當して居る。一學年二ゼメスターとして日本文字から教へる方針である。

(ハ)其他フランクフルトには講師に森永氏あり、ミュンヘンには Haushofer 氏が日本に關する講義をせられてゐるが、長尾氏寄附の正講座が出来る筈でありながら人選難に陥つてその實現を見ないとのことである。

二、佛國。フランス特に巴里に於て東洋學研究が早くから盛んに行はれてゐることは著名の事實であり、有名なる東洋關係の博物館や東洋研究學者が居ることはいふ迄もない所であるが、その多くは支那學研究であつて日本學研究は甚だ少い。巴里大學に三井の基金で日本研究學會 (Institut d'Etudes Japonaises) が設けられてゐるが、その仕事はあまり進んで居らず、その事務は巴里大學都市 (Cité Universitaire) 内の日本學生會館 (所謂薩摩會館 Maison du Japon) で執られてゐる。この日本研究學會の趣旨は「コレージュ・ド・フランス及其他日本及その歴史・制度・文學・藝術並にその地質・資源及外觀の變化・其の人民精神及智的生活等を佛國に知らしめ得べき其他一切のパリ科學的施設、圖書館、博物館に對し協力を齎し」云々といふに在つて、その事業としては「パリ博物館及圖書館に現存する日本に關する資料目錄を作成し、之に常に必要なる補修を加へ、又右諸施設に對し其の日本に關する蒐集品を發達せしめその價值を増加せしむるため協力し」且つパリにおける講演、交換教授その他の知的協力をなすに在る。一九三五年度の研究學會の決算は收入四五、六七五法三五、支出一七、三五九法五五とな

つてをり、一九三六年度の學會の事業として報告されてゐる所は(イ)巴里における日本關係圖書目錄の集成(ロ)日本關係圖書の頒布(ハ)佛國畫家 Callot に關する圖書の東京美術學校寄贈(ニ)在佛日本留學生渡邊・宮下・田島諸氏の研究論文出版補成(ホ)松尾邦之助氏の日本文學史出版補助等である。要するに日本研究學會の仕事は日本會館で行はれ、會館にも圖書室がある程度で特別な研究設備があるわけではなく、またその仕事も目下は目錄調製に過ぎず、所謂日本學の研究としての成果を見るには至つて居ないやうである。なほ巴里の東洋語學校には日本研究で有名な Charles Harunenauer 教授が居られ、同校には日本に關する圖書を收藏してゐる。

三、伊太利。日本と伊太利との間には交換教授及交換學生が行はれてゐるが、所謂日本學の研究に至つては疑問である。羅馬では東洋協會 (Istituto per il Medio et Estremo Oriente) に大倉喜七郎氏の寄贈圖書其他若干の日本圖書があるが、特に日本研究としての特別の設備があるわけではなく、寧ろ西藏・印度・支那を加へての中部及東部アジアの研究で、支那に關するものも多い。羅馬の東洋語學校では東洋語の研究をしてゐる者が二十五人位あるが、それも日本語よりも他の國語を修めてゐるものが多いといふ。

四、チエコスロバキア。プラークに東洋協會があり、その内に日致文化協會があり、日本語講習會がある。その經費はマサリツク前大統領八十五歳祝賀基金とは關係なく、それよりも以前に東洋協會の經費を以て創立されたものであつたが、一九三五年以來は三井高陽男寄附の基金で維持せられてゐる。右の寄附金は一九三五年以來五ヶ年間毎年五萬冠 (Korun) であつて、内二萬冠を以て(イ)東洋協會内圖書館日本部の擴張(ロ)日本文化及日本語教授費用(ハ)致國大學其他諸學校に對する日本文化に關する圖書出版物の寄贈(ニ)日本文化の智識擴布を目的

とする其他の費用に充て、更に二萬冠を東洋協會内日致文化協會の費用に充て、残り一萬冠を日致文化的協力のための臨時の費用として積立つることになつて居る。日本語受講者は高等初等に分れ全部で約二十名であるといふ。日本文化・經濟等に關する講義は未だ行はれてゐないやうである。

五、澳太利。 ウィーン大學に日本語の科目がある。また東洋語學校、東亞文化史研究會等がある由であるが、訪問した日が、暑中休暇中で且日曜日であつたため觀ることが出来なかつた。最近に三井高陽男の寄附で日本文化研究所が出来、岡正雄氏が所長として就任されることになつてゐるから、ウィーンにおける日本文化の研究及其設備も將來大に進展することと思はれる。

六、瑞西。 ジュネーブの國際聯盟内圖書館に日本及支那の圖書を藏してゐるが、別に日本部があるわけではなく、カードの分類では「Asie」といふ部門があり、そこには日本のものが集つてゐる。然し分量は普通のカード箱の抽斗一つ位で、それも普通の統計書年報その他のもので所謂日本學の研究資料たるべきものに乏しい。然し圖書館としての設備は相當立派なものであつた。また國際勞働局の圖書室は小規模のものであるが、日本に關する圖書は聯盟圖書館におけると同じ位の分量があつたと思ふ。當地には支那の中國國際圖書館があることは注意すべきであらう。

七、波蘭。 ワルソウの日本研究は相當盛んである。之には前公使伊藤述史氏の努力による所が多い。同氏は伯林にても鹿子木員信氏等と謀り日本學會 (Japanisches) の基礎を作られたといふことである。ワルソウの東洋學院は遠東及近東の語學を研究する所であつて、日本語部には梅田良忠氏が既に久しく教鞭をとつてをられ、公使

館在勤の Czesław Miszkiewicz 氏も同様である。伊藤氏が公使となられた始め一年は狀勢を観察されてゐたが、次の年から日本研究を行ひ、學院に多數の圖書を蒐集し學生をして研究せしめ、第一年目は隨意問題を選ばしめたが、それには日本の建築・演劇・法律等の研究題目があつたといふ。次の年には日本の文學・歴史などを研究せしめ、伊藤氏は月一回學生を集めて講演し毎回三十名近くの出席者があり講演後討論などを行はれたといふ。また日波學生交換を試み、研究者を日本へ派遣することとされたので、日本語研究者に非常な光明を與へることとなつたといふ。東洋學院からは「東方」と題する機關雜誌を刊行してゐる。當地の日本研究に對する困難の一つは日本に關する歐文文獻の多くが英文であることであつて、若しそれが獨逸文で書かれてゐたならば、一層便利であり研究者に刺戟を與へるだろうと言はれてゐる。ワルソウ大學には Jan Jaworski 教授が居られ支那に關する多くの研究を發表されてゐるが、日本の宗教についても深く研究されてゐる。大學にも日本に關する圖書を藏してゐるが、東洋學院の方が多し。然し學院の圖書も約二百部に過ぎない。大學における日本研究は佛教その他現實の問題から遠ざかつてゐるが、學院の方は現實の問題を研究してゐる所から學院の方が日本研究は盛んだといはれてゐる。かゝる現實的の方面から觀れば、最近ワルソウでは小學校中學校などの地理歴史等の課題や講義に日本のことを取り入れるやうになり、従つて教員や學生から日本に關する問合せが公使館などへ頻々として來るので、これが回答に困つてゐる位、當地の日本研究が盛んになつたといふことである。

八、瑞典。日本研究としての特別の施設はないやうに思ふ。この國も日本研究よりも支那研究の方が盛んである。Göteborg の Högskolan には Bernhard Karlgren 教授があり、東洋語講座の中に日本語もあるが、受講學

生は無いといふことである。

九、白耳義。ルーバン大學には講和會議の際各國から圖書を寄贈したので、日本書も多いがあまり利用されず死蔵の状態である。臨時の講演等はあるが正規の科目としての日本研究はない。

一〇、和蘭。Leiden 大學で、博物館と日本學研究室とを觀た。前者は Rijksmuseum voor Volkenkunde といい、印度・アフリカ・アメリカ・アジア其他の土俗資料を集めたもので頗るよく整つてゐる。日本に關するものも多數あつて佛像・家具・刀劍等の外、浮世繪も一萬點位あるといふ。障子疊敷の室も準備してあつた。Siebold が蒐集して持歸つたものが多いといふ。この博物館に附屬して研究室があり、洋學年表を英譯した C. C. Krieger 氏の室には日本に關する洋書その他が多數あつた。同氏は日蘭關係の歴史を研究されてをり、圖書のうちには美術關係のものが多かつた。この博物館はもと大學病院であつたのを改造したもので五十室以上もあり、中々立派なものである。

後者の Japanologisches Institut は Rahler 博士の研究室である。之は博物館と引續いた建物であるが、ライデン大學文學部所屬の支那日本研究室のうちの日本學研究室で、相當大きな二室から成り、文學・佛教等の圖書・古事類苑・大日本古文書・大日本史料・史籍協會叢書・國書刊行會叢書等多くの叢書があり、辭典類も中々多い。中には醫學に關する辭典もあつた。雜誌類も中々よく集めてある。たゞ政治經濟に關する圖書は少い。經濟史のものも二三あるが不十分である。或は伯林の日本學會よりも新刊書を續々購入してゐる點に於て勝つて居るとも思はれる位である。尤此等の圖書は Rahler 氏私藏本も少くないらしい。同氏は日本語を教へて居られるのみで日本に

關する講義はなく、日蘭交換教授なども中々六かしいとのことであつた。隣りの支那研究室の方は多くの藏書と圖書費とを持つてゐるといふ。

Hague の Rijksarchief には日本出島貿易の歐文史料が非常に澤山ある。家康その他の朱印狀日記等もあり大阪城の圖もあつた。書庫の設備も整つてゐる。Drecht 大學では前述の Krieger 氏が日本學科を囑託されてゐるといふ。

一一、英國。英國での日本文化施設は殆んど無いといつても差支ない。最近東北帝大の土居教授が Oxford, Cambridge 等で數回講演されるやうであり、日英交換教授の實現かとも見られるが、研究施設としては問題とすべきものがない。たゞロンドンの Public Record Office には東洋駐在の英國領事等からの報告の原本 Manuscript が一八五五年以來揃つてゐて無慮二千冊に達してをり、幕末維新の史料として實に立派なものであるといひ得る。

即ち

Correspondence, General	1856—1905	678 vols.
Confidential Print	1927—1932	24 ♪
Embassy & Consular Archives	1855—1922	1173 ♪
		1865

日英協會、Japan Society などは社交的のもので、Asiatic Society は古くから雜誌 The Transactions of the Asiatic Society of Japan を發行してゐるが、研究設備としては如何なものであらう。